

未来の日光のゆめ

小来川小六年

亀山 有美

小学校6年最優秀



私は、日光に、大きい資料館があればいいなあ、と思いました。日光の歴史や、特産物のてん示、それに、東照宮の徳川家康のことがくわしくわかるようになっていければ、社会の勉強などに役立つからです。そしてその資料館には、マイコンやパソコンなどのコンピュータを入れて、分かりやすく、楽しく勉強できるようにしたいと思っています。また、滝ヶ原に伝わる、三つの石のことや、小来川の黒沼や神橋などのいろいろな伝説を、くわしくてん示したりしてあれば日光にきょう味を持つようになる人がたくさんできるようならいいと思います。それから、その資料館には、日光の工業の発展や、観光にかんすることなど、日光の産業に関することなどを写真やガイドなどをとりまぜて、くわしく説明してあれば、日光市のごとが小さい小学生などにもよくわかるだろうと思います。そして、幼稚園児などにも楽しめるように、いろいろな資料を説明してくれる

ロボット、日光のむかし話をしてくれるロボット、記念スタンプをおしてくれるロボットなどと、おもしろいロボットをたくさん館内に置いておけば、べんりだと思っています。そして、私の二番目のゆめは、日光の自然を生かして、自然公園を作ったらどうだろうとゆうことです。ちょうちよやトンボ、かぶと虫などの昆虫もたくさんいます。また、それぞれの木には、色とりどりのすばかがかかっています、とてもきれいです。小犬や子やぎやウサギは、野ばなしになっていて、みんな

滝ヶ原の三つの石

亀山さんの作文に出てくる、滝ヶ原に伝わる三つの石とは、黒川の上流の西沢にある、「馬石」「鞍(くら)石」「蛇石」の三つの石で、天文九年(一、五四〇)順海房昌安が、この地で土俗におそわれて殺されたとき、昌安の乗っていた馬と鞍が石に化けて「馬石」「鞍石」となったと伝えられる石で、馬石の中央のへコミには、常に水がたまっていて、この水が濁(か)れると洪水などの天候異変があるといわれています。

また、「蛇石」の方は、この石の下に昌安と彼のお供二人が眠っていて、この石に小石を投げて三回まわると、大小三匹の蛇がノロノロと出てくると伝えられています。(星野理一郎氏著、日光の故実と伝説から)

自由にさわられて、とってもかわいいです。そして子馬に乗ったり、牛の乳しぼりをしたりもできます。たくさんのお花や草もはえています。そして、その中に、大きなからん車や、子供も大人も入れる、すばらしいプールなどもあります。たくさんのおもしろい乗り物もあります。自然の中をサイクリングもできます。きっと、とてもよい気分でしょう。そして、そこに来ただれもが、緑や動物たちと、仲良しになれたら、本とうに、すばらしいと思います。このような、緑の中の自然公園は、草木の豊富などころでしかじつげんできないと思います。それには、日光が一番てきしていると思います。

私は、日光の資料館と、自然公園が、何年後かにじつげんできたとしたら、本とうにいいだろうな、と思いました。

未来の日光

日光中一年

大柱 裕子

中学校1年最優秀



「日光ってどんな所?」と、聞かれたらどのように答えたら良いでし